

ワークライフバランス(WLB)& アンバランス(WLU)の バランス感覚

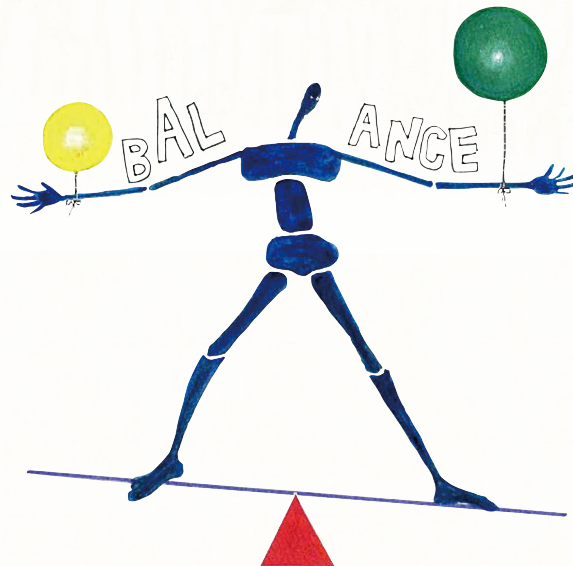
岸本 和裕

竹田総合病院皮膚科科長

偽のWLBを手に入れるのは簡単だが、真のWLBを手に入れるのは容易ではない。前者は「時間軸」で、後者は「生産性」で仕事を考える。

会社にある案件がもち込まれたとする。担当者Aは3人体制で1週間取り組んだが案件を解決できなかった。一方、担当者Bは初日わずか1時間で解決した。これを「時間軸」で考えると、Aは1日8時間、チームを組んで1週間仕事をしたので「すごく頑張った」が、Bはたった1時間しか仕事をしていないので「手抜きだ!」と評価される。そして、Aの報酬は時間給×8時間×7日間×3名分(円)と高額、Bは時間給×1時間(円)と超低額になる。視点を変えて、これを「生産性」で考えると、Aは案件を解決していないので「生産性」は“ゼロ”→「報酬を受け取る資格なし」、Bは見事に解決したので“高い”「生産性」→「高報酬」となる。真逆の評価に戸惑うがシンプルに考える。Amateurは「労働時間」に、Professionalは「生産性」&「問題解決」にこだわって仕事をしているに過ぎない。多くの会社や組織には両者が共存するため、“真のプロ集団”を構築するのは非常に困難である。

さて、私が17年間身を置き続けてきた環境はどうか。福島県、会津若松市、医療崩壊、東日本大震災、1,097床(現837床)の大病院、1人体制、専門外来(皮膚アレルギー、自己免疫性水疱症、膠原病、乾癬、掌蹠膿疱症、脱毛症、感染症、フットケア、皮膚外科、レーザー等)をすべて担当。皮膚科業界では比類なき貧乏クジ! (笑)。この環境に飛び込んだ未熟者が、WLBを大切にしながらむずかしい案件をスイスイ解決していく……なんていう“あり得ないほどうまい話”は……実際あり得ない!。未熟者が「時間軸」で仕事をすると、未解決の



案件が累積し、アッという間にパンクする。たった一人，ずっと一人……助け舟は一切ないので、「逃げ出す」か「潰れる」しかない。そうではなく「乗り越えよう」とするなら，安楽な道は存在せず，「質の高い仕事を短時間にできるようになるまで，何年も人の何倍も大変な修行を積む」しか道はない。

真のWLBをつかむには，容易には解決できない難題に挑み，試行錯誤と悪戦苦闘を続け，高い「問題解決能力」を身につける必要がある。“Freedom is not free.”だから，この期間はWLUが必須となる。そして，水面下で自己研鑽を積み，実戦経験を重ね自分を造り込んでいくと，「腕」や「胆」がまるで違ってくるので，ようやくWLUとはサヨナラできる。未熟な皮膚科医が偽のWLBを保つために，誰でも簡単に真似できる手技や診断法，高価で著効する治療薬に飛びつき，要領よく仕事(手抜き)を覚えれば，その先に待っているのは……成長の行き止まり&“取り替え可能”という存在価値。WLB&WLUは，“是非”ではなく“生き方”の問題だから，“自分の志”と相談して決めればいい。